

合併による市町村数の変遷について

明治の大合併（自然集落を市制町村制施行に伴い行政上の目的にあった規模としたもの）

年	月		全国	宮城県	備考
明治21年	12月	A	71,314	1,012	
明治22年	12月	B	15,859	199	※左記の宮城県の欄中に、これまで198と記載がありました。199に訂正しています。 (令和4年3月31日付け訂正)
減少数 (B-A)			△ 55,455	△ 813	
減少率 (B-A)/A (%)			△ 77.8	△ 80.3	

昭和の大合併（戦後の市町村の役割の変化に伴い新制中学校区規模8,000人を目処としたもの）

年	月		全国	宮城県	備考
昭和28年	10月	C	9,868	187	
昭和36年	6月	D	3,472	75	
減少数 (D-C)			△ 6,396	△ 112	
減少率 (D-C) / C (%)			△ 64.8	△ 59.9	

平成の大合併（地方分権の受皿として市町村の行財政基盤の強化を図るため自主的な合併を推進）

年	月		全国	宮城県	県内の合併（見込）市町村
平成11年	3月末	E	3,232	71	
平成15年	4月		3,190	69	加美町
平成16年	4月		3,100	69	
平成17年	3月末		2,521	69	
平成17年	4月		2,395	45	登米市、栗原市、東松島市、石巻市
	10月		2,216	44	南三陸町
平成18年	1月		2,052	43	美里町
	3月末		1,821	36	大崎市、気仙沼市
平成21年	9月	F	1,774	35	気仙沼市
減少数 (F-E)			△ 1,458	△ 36	10市59町2村(H7.4.1)→13市21町1村(H21.9.1)
減少率 (F-E) / E (%)			△ 45.1	△ 50.7	

※ 全国の状況は官報告示済のもの（平成21年9月1日現在）。